

研究活動一覧（第 34 輯）の刊行に際して

この度、杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧（第 34 輯）が刊行されるにあたり、関係者のご尽力に敬意を表する次第です。平成 22 年 6 月の学校教育法の一部改正で、大学には、「教育研究活動等の状況についての情報を公表する」ことが義務づけられました。この研究活動一覧はその貴重な資料でもあります。

さて、平成 22 年 4 月から 6 年間の本学の第Ⅱ期中期計画で、附属図書館は、「大学の教育方針や利用者のニーズに依拠した図書館の環境整備を進め、電子図書館機能の整備・充実を図る。」ことになっています。これに対応する平成 22 年度計画は以下の通りでした。

- 1) 大学の方針と図書館利用状況に基づく図書館整備計画を策定する。
- 2) シラバス掲載図書を中心に学生用図書の整備を進める。
- 3) 電子ジャーナル等の整備と全学的利用についての問題点を検討する。

最初の項目については、附属図書館将来構想ワーキンググループを立ち上げ、約 1 年間にわたって検討した結果、「富山大学附属図書館将来構想（事業計画）」がまとまりました。その中でも述べられているように、薬学図書館については、薬学キャンパスの学生数は 1.8 倍に増えているにもかかわらず、図書館のスペースは、開学以来同じままです。その結果、学生 1 人当たりの閲覧面積は、 0.3 m^2 となり、新設医科大学の平均値 0.7 m^2 （全国国立大学の平均値 0.5 m^2 ）を大きく下まわっています。このような状況を解決するために、関係者のご努力で、「薬学図書館の増築・改修」案がまとめられ、平成 24 年度施設整備概算要求として、大学本部に提出されました。附属図書館の増築・改修は、すでに実現している大学も多く、本学もこの問題に積極的に取り組んでいく必要があると考えています。

第 2 の学生用図書の整備については、「富山大学附属図書館学生用図書資料の選定基準」を作成し（平成 22 年 3 月）、シラバス掲載図書を中心に学生用図書の整備を進めました。これも関係者のご尽力により、薬学図書館では、平成 22 年度はシラバス掲載図書 657 冊のうち、647 冊（98.5%）が整備されるに至りました。昨年度に受けた「大学機関別認証評価」でもシラバス掲載図書が網羅的に整備されていることが評価されています。某有名大学では、シラバス掲載図書が図書館に入っていないと、利用者からクレームがきて、図書館はすぐに対応すると聞いています。それが大学図書館の本来の在り方でしょう。

電子ジャーナルについては、どのジャーナルを全学共通経費で支出するべきかが問題となります。これについては、小委員会を設置し、「全学共通経費で整備する電子ジャーナル・データベース等の選定ルールを策定し、定期的な見直しを行う。」ことになりました。

では、皆様方の益々のご活躍を祈念するとともに、図書館の充実整備に日頃からのご協力をお願い申し上げます。

富山大学附属図書館長 倉 知 正 佳
Kurachi Masayoshi